医療との関わり方を考える

―地域医療の充実と救急医療の適正化のために―

健康であり続けたい。
これは全ての人に共通する願いです。
今回の特集では、私たちが生涯を通して、地域で安心して暮らし続けるために、これから求められる医療の役割や在り方を紹介。
私たちにできることを考えていきます。

詳細 医療政策課☎622-5162

急速な高齢化により、札幌では平成27年におおむね4人に1人が高齢者となり、その後も増加することが予想されています。それに伴い、医療機関を受診する人も増える見込みですが、これからも治療が必要な人に医療が行き渡る体制であり続けなければなりません。

医療体制を維持していくために、市では次の2つを課題と考えています。1つは、地域の医師「かかりつけ医」と、専門的な治療を行う「病院」の役割を十分に理解せず受診すること。もう1つは、軽症でも安易に救急医療を利用する人がいることです。医師の数や医療施設に限りがある中、市民の健康で安心な暮らしを守り続けるためには、これらの課題の解決に向けた取り組みを、今から進めることが必要です。

医療の課題

- かかりつけ医と病院の役割に応じた受診
- 救急医療の適正な利用

↓

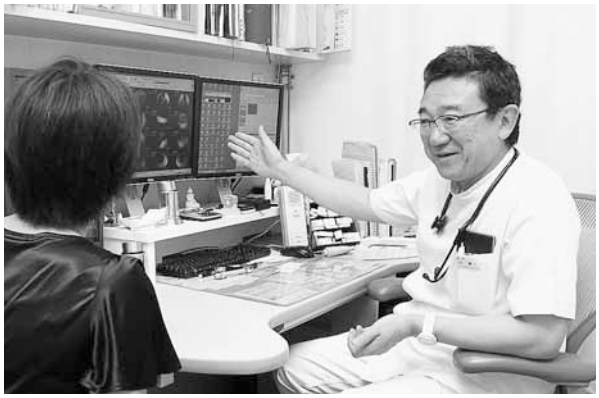
一人一人がこれらを徹底することで、今、そして未来の医療を守る第一歩に

かかりつけ医の役割とは

患者さんとの信頼関係を築き、話をよく聞いて治療につなげる

患者の家族関係や生活環境を把握した上で治療を行う医師「かかりつけ医」は、気軽な健康相談の相手として、地域で安心して暮らし続けるために欠かせない存在です。

そうしたかかりつけ医を持つことの必要性を、地域で慕われる診療所の医師に伺いました。



今 眞人（こん まさと）さん
北区にある今医院の院長。患者の治療を行う傍ら、札幌市医師会の副会長として地域の福祉機関と連携して治療する体制づくりに取り組む。

―地域にかかりつけ医を持つことの意義は？

患者さんの生活全般を把握した上で治療できるところです。家族ぐるみで受診されている方もいて、生活状況や親族の病歴など、たくさんの情報を基に診断し、最善の治療法を考えることができます。

―大きな病院に通った方が安心という方もいるのでは？

治療に使う設備は、規模の大きな病院には及びませんが、一人一人の患者さんとじっくりと話をしながら診察できるので、信頼関係を築いていくことができます。

―かかりつけ医ならではのエピソードを教えてください。

大きな病院に通っても病状がなかなか改善しない、という高齢の方を診察しました。往診して家族にも詳しく話を聞いたところ、偏った食生活をしており、服薬も正しくなされていないことが判明。介護ヘルパーなどにも働き掛け、生活習慣を見直すことで病状が改善したことがありました。

―かかりつけ医を決めるときのポイントは？

近くて通いやすいことが第一。また、専門の治療が必要なときに適切な病院を紹介してくれるところがいいですね。

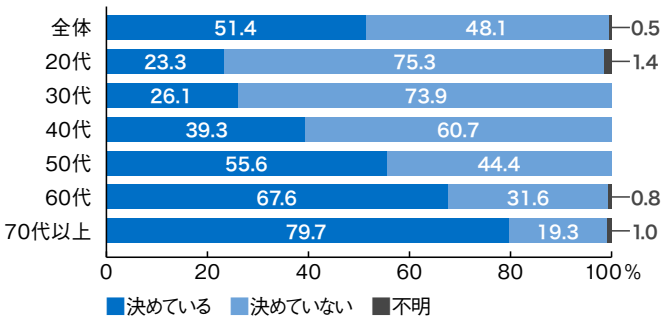
―今後、かかりつけ医が果たすべき役割とは？

高齢化が進むにつれて、患者さんの家で治療を行う「在宅医療」の重要性が高まります。そうした中で、かかりつけ医を中心に、訪問看護や介護機関などと共に患者さんを支える仕組みをつくることが大切です。地域に頼られる存在であるために、責任を持って患者さんと向き合っていきたいですね。

私たちの健康を支える最も身近な医師「かかりつけ医」

かかりつけ医を決めている方は、市民の約半数。中でも20代～30代は3割以下と、若い世代ほど少なくなっています。健康を維持するためには、わずかな体の異変に気付いてもらえ、早期治療につなげられるかかりつけ医を早いうちから持つことが大切です。

■かかりつけ医を決めている方の割合



資料：札幌市医療に関する意識調査（平成21年3月）

大規模な病院の役割とは

先進的な設備や技術を駆使し、専門性の高い医療を手掛ける

市内にはベッド数が200床以上ある大規模な病院が62カ所あります。これらの病院は、高度な治療ができる設備が整っており、専門性の高い治療を行っています。

そうした病院が担う役割や地域の医療機関との連携について、市立札幌病院の医師に聞きました。

関 利盛（せき としもり）さん
市立札幌病院副院長。地域の医療機関と市立札幌病院をつなぐ「地域連携センター」の責任者も兼務し、病院・診療所間の連携の強化に取り組む。

―大規模な病院はどのような医療を担っているのですか？

一般的に大規模な病院には複数の診療科があり、各科の専門医が、最先端の技術と機器を駆使して、病状の重い患者さんの治療を行っています。

―具体的に市立札幌病院が行う医療とは？

病気を併発する方の治療を各科が連携して行っているほか、生死を争う患者さんを受け入れる「救命救急センター」、低出生体重児などを治療する「総合周産期母子医療センター」など専門的な施設も整えています。民間の病院では採算面などから提供が難しいとされる医療を積極的に担うことが、当病院の特徴です。

―地域のかかりつけ医とは役割が違うのですね。

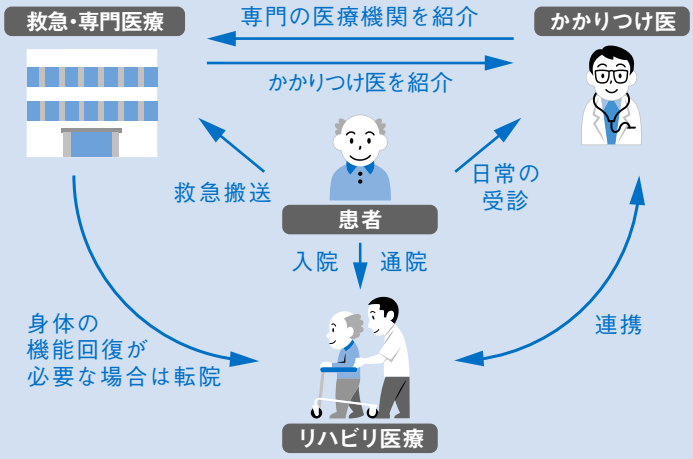
日常の診察はかかりつけ医、専門的な治療が必要と診断されれば大規模な病院を受診してもらうという役割分担を進めています。例えば、がんを発症した場合、手術は大規模な病院で行いますが、症状安定後はかかりつけ医で経過を観察します。治療内容などは共有しており、急変したときでも、すぐに受け入れることができます。患者さんにとっては、2人の医師が見守ることになるため、安心感を持ってもらえると思いますね。

―今後、大規模な病院が目指す医療の在り方とは？

大規模な病院は専門的な医療を提供できますが、全ての患者さんの経過を見守り続けることはできません。だからこそ、地域の医療機関などと連携を強めることが大切です。患者さんが心の底から安心できる、切れ目のない医療を目指していきます。

地域全体で患者を支える体制づくりを進めます

1つの病院だけで1人の患者の診断から治療、経過観察まで全てを担うことは困難です。かかりつけ医、大規模な病院、リハビリ施設など各機関が持つ役割や機能を生かし、地域全体で患者を見守る医療体制の確立を目指します。



救急医療の適正化

安易な救急医療の利用を減らすために

市内の119番通報のうち救急に関するものは昨年約83,000件。その中には、軽いケガなど緊急性の低い通報もあります。安易に救急医療を利用することは、本当に必要な人への医療の提供を遅らせてしまう恐れも。救急医療を正しく利用してもらうために、電話で医療相談ができる窓口が新設されます。

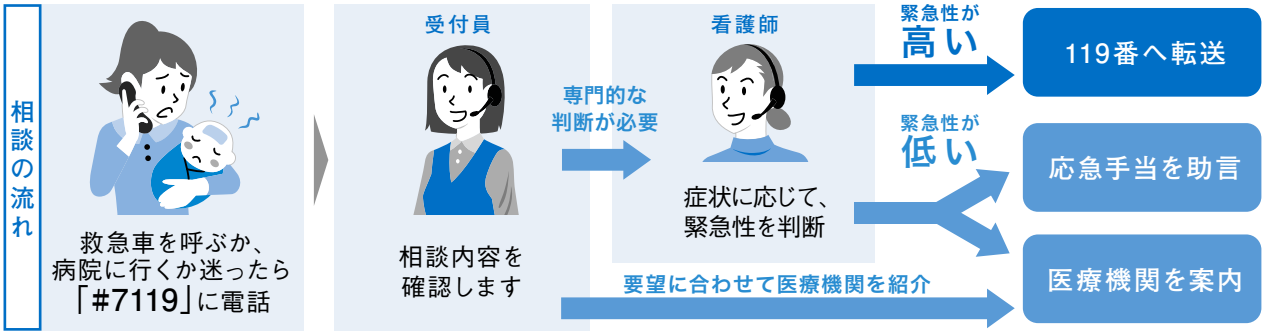
救急車を呼ぶべきか迷ったときの電話相談窓口

救急安心センターを10/1㈫正午に開設

救急安心センターは、急な病気やケガで、救急車を呼ぶか、医療機関を受診すべきか迷ったときに相談できる窓口です。受付員や看護師が相談する人の症状に応じて、119番への転送や医療機関の受診案内、応急手当てなどの助言を行います。

救急安心センター電話番号 #7119

24時間 365日対応　※ダイヤル回線、一部のIP電話の方は☎272-7119におかけください



※現在受診している病気の治療内容などの相談はできません。

◎他にも救急時に相談できる窓口があります

産婦人科救急相談電話☎622-3299

［受付時間］毎日19時～翌日7時

夜間の産婦人科に関する救急の相談に助産師が応じ、必要な場合は医療機関と調整の上、受け入れ先を紹介します。

精神科救急情報センター☎204-6010

［受付時間］17時～翌日9時（土・日曜、祝日は9時から）

精神保健福祉士などの専門家が、緊急の精神科医療の相談を受け、必要に応じて当番病院を紹介します。

今も未来も安心して医療を受け続けるために

将来にわたって医療水準を維持していくためには、市や医療機関だけが取り組むのではなく、市民一人一人が普段から医療機関の役割や救急車の正しい使い方について意識しておくことが求められます。誰もが安心して暮らせる医療の仕組みを、共に支えていきましょう。